

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 加古川健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<ul style="list-style-type: none">東播磨圏域は健康寿命が県平均よりも低く（H27）、糖尿病、脳血管疾患の死亡率が県平均よりも高い（H23-27 SMR）。食塩の平均摂取量は10.4gと目標量8gを越えている。野菜の摂取量は267gと目標量350gには達していない（H28ひょうご食生活実態調査・20歳以上）。生活習慣病の一次予防として減塩の取組みについて、幼児期から望ましい食習慣の定着に向けて、味覚や食習慣の形成に関わる保育所・保護者・地域、食育関係団体等により行う必要がある。
今年度の推進方策	保護者及び幼児への減塩の普及啓発に向けて、食育リーフレット（平成30年度作成）を活用し、児童福祉施設、食育関係団体等により減塩をテーマとした食育実践活動を実施する。
成果	関係機関の協力のもと、昨年度作成した食育リーフレットを活用し、児童福祉施設、食育関係団体を通じて、幼児及び保護者への減塩の普及啓発を行うことができた。 加えて、「幼児及び保護者を対象とした減塩促進の実践に向けて」をテーマとして管内児童福祉施設（管理者）を対象に研修会を開催することで、児童福祉施設の食育活動の取り組み促進に寄与した。
今後の方向性	今後も、幼児期から望ましい食習慣の定着に向けて、味覚や食習慣の形成に関わる保育所・保護者・地域、食育関係団体等が行う食育活動を通じて、生活習慣病の一次予防（減塩）に取り組む。

2 会議の開催状況

実施日時	【1回目】令和元年7月30日（火） 15:00～16:30	【2回目】令和2年2月21日（金） 15:00～16:30
参集者 （団体数 及び人数）	児童福祉施設関係者、食育に関する学識経験者、食育関係団体、行政機関等 14人	児童福祉施設関係者、食育に関する学識経験者、食育関係団体、行政機関等 14人
協議内容	<ul style="list-style-type: none">食育実践活動の報告普及啓発にかかる研修会の企画	<ul style="list-style-type: none">食育実践活動の評価今後の方向性について
今後の方策	児童福祉施設の管理者を対象に普及啓発にかかる研修会を開催し、管内児童福祉施設における普及啓発活動を促進する。	今後も、児童福祉施設や食育関係団体等が行う食育活動を通じて、生活習慣病の一次予防（減塩）に取り組む。

3 食育実践活動の結果

テーマ	幼児及び保護者を対象とした減塩促進の実践に向けて		
対象及び参加者数	①幼児と保護者（ア 18名、イ 15名、ウ 23名、エ 15名） ②児童福祉施設の管理者等（オ 37名、カ 22名）		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	① ア 5月14日(火) 11:30～11:50 市立荒井保育園 (高砂市)	・講話「お塩のおはなし」 ・出汁、みそ汁の飲み比べ	講師：市幼児保育 課栄養士 スタッフ：施設職員
	イ 6月5日(水) 10:00～11:40 つみき保育園 (加古川市)	・紙芝居「ころころおにぎりできあがり」 ・講話「お塩のおはなし」 ・出汁の試飲 ・みそ汁の塩分測定 ・給食試食	講師：保育士、地域 活動栄養士 スタッフ：施設職員
	ウ 6月8日(土) 11:40～13:00 高砂児童学園 (高砂市)	・講話「お塩のおはなし」 ・出汁の飲み比べ ・給食試食	講師：市幼児保育 課栄養士 スタッフ：施設職員
	エ 6月25日(火) 12:00～14:00 みのりヶ丘保育園 (加古川市)	・みのりっ子ふりかけ作り ・給食試食 ・講話「お塩のおはなし」	講師：園長、施設栄 養士 スタッフ：施設職員
	② オ 8月28日(水) 14:30～16:30 (第1会場) 加古川総合庁舎 カ 9月2日(月) 14:30～16:30 (第2会場) 加古川総合庁舎	・趣旨説明 ・実践活動発表 ・グループワーク ・まとめ	つみき保育園保育士 みのりヶ丘保育園栄 養士 市立荒井保育園園長 高砂児童学園保育士
成 果	<p>【成果】 3年間の取り組みを通して、幼児期からの望ましい食習慣の定着にむけ、減塩についての取り組みの必要性が児童福祉施設に認識され、食育活動の幅が広がるものとなった。特に食育リーフレットは児童福祉施設とともに子ども向け媒体として作成したことで、活用しやすいものとなり、子どもから家庭へ普及する食育活動の実践促進にもつながった。</p> <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <p>①児童福祉施設対象アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育リーフレットは減塩に向けた食育活動に役に立った 100% <p>（身近な食品の食塩の含有量を知ることができ、写真をみて適量がわかり保護者に伝えやすかった。 図や写真が多く、目で見ても理解しやすかった。）</p> <p>②実践活動参加保護者対象アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育リーフレットの内容 わかりやすかった 95% 1日にとる食塩の目標量 参考になった 64% <p>※事前アンケート：1日にとる食塩の目標量を知っている人の割合 18%</p>		
今後の課題	児童福祉施設における減塩に向けた取り組みの推進と継続 (幼児や保護者への食育活動の実践等)		

健やかな成長につなぐ 幼児期からの減塩の取り組み

【背景】

- 東播磨圏域は健康寿命が県平均よりも低く（H27）、糖尿病、脳血管疾患の死亡率が県平均よりも高い（H23-27 SMR）。
- 食塩の平均摂取量は10.4gと目標量8gを越えている。野菜の摂取量は267gと目標量350gには達していない（H28ひょうご食生活実態調査・20歳以上）。
- 生活習慣病の一次予防として減塩の取組みについて、幼児期から望ましい食習慣の定着に向けて、味覚や食習慣の形成に関わる児童福祉施設・保護者・地域、食育関係団体等により行う必要がある。

食育推進会議の設置

構成員

児童福祉施設関係者、食育に関する学識経験者、加古川健康福祉事務所管内栄養士会、加古川健康福祉事務所管内いずみ会、事業所、行政

【推進方策】

- 児童福祉施設の給食を通じて幼児期からの減塩の取り組みをすすめる。
- 児童福祉施設における幼児及び保護者への食育実践に向けた体制整備を行う。

実践活動の企画・運営・評価

今後の取り組みの検討

実践活動

幼児と保護者を対象とした減塩の普及啓発活動

H29（2017） 給食関係者へ幼児期の減塩の取り組みの意識づけ

児童福祉施設給食の汁物の塩分測定



保育所や認定こども園などの児童福祉施設で提供されている給食の汁物の塩分濃度を測定し、給食の汁物の食塩相当量を把握

①平成29年8月22日(火) ②9月1日(木)

研修会の開催

日程 平成29年12月8日(金)
講師 大阪市立大学大学院
生活科学研究科・生活科学部
食・健康科学講座 公衆栄養学
教授 由田 克士 先生

「健やかな成長につなぐ
幼児期からの減塩の
取り組みについて」



H30（2018） 児童福祉施設に向けた幼児期からの減塩の普及啓発

研修会の開催

児童福祉施設の給食担当者を対象に、幼児期からの健康づくりにつながる栄養管理の充実にむけた研修会を開催

①平成30年8月29日(水) ②9月12日(水) ※②は1のみ実施

- 1 情報提供 「食を通じた子どもの健康づくり」 加古川健康福祉事務所健康管理課
- 2 講話 「給食における塩分濃度の管理」 高砂市幼児保育課 栄養士
- 3 情報提供 「幼児期からの減塩に向けた食育活動の提案」 公衆栄養学臨地実習生
- 4 商品テスト「食品の塩分について」 消費生活総合センター 商品テスト専門家

食育リーフレットの作成

児童福祉施設を通じた幼児及び保護者への普及啓発に向けて減塩をテーマとした食育リーフレットを関係者とともに作成

【作成時に配慮したこと】

- イラストや写真を入れて保護者が子どもと一緒に見ることができるよう。
- 身近な食品にどのくらいの食塩が含まれているかを伝えたい。
- 食塩摂取量について大人だけでなく子どもの目標量も知ってほしい。



R1（2019） 児童福祉施設と連携した保護者等への食育活動(減塩)の実践

幼児と保護者への食育活動

児童福祉施設で、幼児や保護者対象の食育活動を実施



【参加者の様子等】

- 食育リーフレットに様々な食品の塩分量が表示されており、興味深く見ていた。
- 園児はイスに座り、しっかり話を聞くことができた。
- 真剣に話を聞いてくださり、食への関心があることがよくわかった。
- 年齢に応じた目標量が載っていて、子どもは大人の半分の量だということも驚かれていた。

【実施施設の感想】

- 身近な食品の塩の含有量を知ることができた。
- 写真を見て、適量がわかり保護者に伝えやすかった。
- 食育リーフレットにそって話を進めていくと内容がまとまり、説明しやすかった。

研修会の開催

児童福祉施設の管理者を対象に幼児及び保護者を対象とした減塩の普及啓発活動にかかわる研修会を開催

①令和元年8月28日(水) ②9月2日(月)

- 1 実践活動発表
 - ①つみき保育園・みのりヶ丘保育園
 - ②市立荒井保育園・高砂児童学園
- 2 グループワーク



幼児及び保護者を対象とした減塩促進の実践に向けて



【今後の課題】

児童福祉施設における減塩に向けた取組みの推進と継続（幼児や保護者への食育活動の実践等）

食育活動に参加しない・参加できない保護者の理解をどのように深めるかも引き続き課題